

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業

令和4年度に終了した試験研究課題の事後評価結果及び行政における研究成果の行政施策・措置への反映について

課題番号	試験研究課題名 及び実施研究機関	実施期間 (年度)	研究概要	評価所見	総括評価	研究成果の行政施策・措置への反映
20320 649	いのしし用国産CSF 経口ワクチンの開発 【実施研究機関】 CSF 経口ワクチンコンソーシアム ・(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 ・共立製薬株式会社 ・広島県公立大学 法人県立広島大学	R2～ R4	(背景・目的) 豚熱(以下「CSF」という。)の防疫対策の1つである野生いのしし対策については、2019 年度3月から経口ワクチンを散布しており、2020 年3月までに累計約389,000 個、同年6月までに累計約604,000 個を散布しているところ。今後、経口ワクチンの継続使用とその散布地域の拡大が見込まれるが、現在、当該経口ワクチンはその全量をドイツからの輸入に依存している。このことから、安定的に国内で製品を供給するために、経口ワクチンに適したウイルス株を作出するとともに、国内での使用に適したベイト剤を開発し、いのしし用国産 CSF 経口ワクチンを試作する。また開発した試作品について、その有効性を確認する。 (研究項目) ① 経口ワクチンに適したウイルス株の作出 ② 国内での使用に適したベイト剤の開発 ③ 試作経口ワクチンの効果確認	・現行の飼養豚用ワクチンの製造に用いられているモルモット由来細胞以外の培養細胞を複数試験し、ワクチン株の効率的な培養に実用可能なものを発見、手法を確立したことは大きな成果である。 ・ワクチン液を封入する抱合材とベイト剤の開発及びその嗜好性の調査に関しては、状況に応じて適切な調整が行われ、実施期間内に最大限の効果が得られるよう研究が実施されており、十分な先導性があると考え。今後の社会実装に関する試験や実証試験の実施を加速することが必要。 また、野生いのしし用経口ワクチンの開発は、今後、アフリカ豚熱に対するワクチン開発にも応用可能であると考え。 ・一方、豚由来細胞を用いてウイルスを増殖させる手法を用いることによるワクチン株の病原性復帰の懸念への対応、抗体の賦与率の向上及びタヌキ、ネズミなどによる盗食対策については今後の検討が必要である。	A	・散布実証実験を実施し、また現場投入に当たり必要となる安全性試験、安定性試験等を実施 ・国産経口ワクチンの製造方法の確立 ・国産豚熱経口ワクチンの現場実装

<総括評価の説明>

- A: 研究目標を達成し、研究成果を行政施策・措置に十分に活用できる。
- B: 研究目標の達成に至っていない部分もあるが、行政施策・措置に活用できる成果が得られている。
- C: 研究目標はやや達成されておらず、行政施策・措置への活用には更なる成果を要する。
- D: 研究目標の達成は不十分であった。